イスラ ム文明に する引用（パ ト1／2）

5.0

明:著名人によるイスラ ム文明 文化についての特 すべきコメント。

目: 事イスラ ムによる利益科学と文明への利益

より: A．ザフ ル博士（IslamReligion.com 集）

日21 Mar 2011

集日 11 Jan 2021

ナポレオン ボナパルト

??????????????????????????????Christian Cherfils, 'Bonaparte et Islam,' Pedone Ed., Paris, France, 1914, pp. 105, 125???????

-原典: "Correspondance de Napoléon Ier Tome V pièce n° 4287 du 17/07/1799..."

「モ ゼは神の存在をその民に示した。同 にイエス キリストはロ マ世界に、そしてムハンマドは旧世界に

「アラビア世界はイエスの6世　、ムハンマドがアブラハムとイシュマエル、モ ゼとイエスの神の崇 を 介した 、偶像崇 の中にあった。またア リア人とその他の集 は、父と子と精 の性 に する　を激しく え、 洋の静寂を乱していた。そしてムハンマドは、父も子もいない唯一の神しかおらず、三位一体 は偶像崇 的理念の 入である旨宣言した

「私は、全ての国の 人や教 ある者が一堂に会し、クルア ンの原理に基づいた 一政体を出来る日が からずやって来ることを望む。クルア ンこそは唯一の真 であり、また唯一人 を幸福へと くことの出来るものなのだ。」

ジョ ジ バ ナ ド ショ 卿

?????????‘The Genuine Islam’Vol. 1, No. 8, 1936.???????

「もしイギリス、いやヨ ロッパを今 数百年 支配するチャンスのある宗教があるとすれば、それはイスラ ムであろう。」

「私は常に、その素晴らしい生命力ゆえ、ムハンマドの宗教に高い敬意を ってきた。
私には、イスラ ムこそが存在の わり行く 面を消化する 容力を えた、あらゆる 代に えることの出来る唯一の宗教であるように思えるのである。私はムハンマド— 出した人 であり、私の意 ではアンチ キリストなどからは　い存在—を研究したが、彼こそは人 の救世主と呼称されるべきである。」

「私は、もし彼のような男性が 代世界の　　を担うならば、待望されている平和と幸福をもたらしつつ、　　を解 することに成功するだろうと思っている。私はムハンマドの信仰が、今日のヨ ロッパにとって 容可能なものになり始めているように、明日のヨ ロッパにとっても 容可能なものであると予 している。」

バ トランド ラッセル

????????History of Western Philosophy,’ London, 1948, p. 419???????

「西 699年から1000年に渡る期 を覆った、“暗　代”と
我々が用いる言い回しは、西ヨ ロッパへの不当な偏りを示している

「インドからスペインにかけて、イスラ ムの かしい文明が花 いた。当 のキリスト教国
にとっての 失は文明にとっての 失ではなく、むしろ完全に逆のものであった

「私たちにとっては西ヨ ロッパ文明こそが文明であるように映るが、それは一 の 界狭
窄なのである。」

ハ バ ド ジョ ジ ウェルズ

「イスラ ムの教 は公正かつ やかな取引や素行に、 大な　を残した。また人々を高 さと忍
耐さでもって鼓舞した。これらは、最も高い位 にある人 の教えであり、同 に 行可能な
ものでもある。これらの教えは、それ以前の社会と比 して冷酷さや集 抑 や不正が最小
限に抑えられる社会をもたらした　 イスラ ムは、 しさと礼 と友 で ち溢れているのだ。」

ウィリアム ドレ パ 博士

????????????????‘History of Intellectual Development of Europe’???????

「カリフ 代、教 あるキリスト教徒やユダヤ教徒らは非常に尊重されただけでなく、重
要なポストに任命されたり、高い 位にある政府 を任されたりした　 彼（カリフ ハ ル ン ア
ッラシ ド）は学 ある人物の国籍や信条などではなく、その知 分野においてその者が有
する卓越性こそを考 したのである。」

ト マス カ ライル

????????????????????????‘Heroes, Hero Worship, and the Heroic in History,’ Lecture 2, Friday, 8th May 1840???????

「私たちのいかなる者にとっても、マホメット教徒（ムスリム）になることにおいて
いかなる危 性もない。私は、私が公正にそうすることが出来る限りにおいて、彼の全
ての美 を述べるつもりである

「ポ コックが、エンドウ豆をマホメット（ムハンマド）の耳から拾い上げ、彼に　させ
る一人の天使のもとを通り ぎたハトの物 の 明はどこにあるのですか、とグロチウスに
ねた 、グロチウスは、　などありません、と答えたのである！（つまり、その当 流布さ
れていたイスラ ムに する　は、捏造されたものだったということ。）

「彼は勤勉だったが、 乏した状 に置かれていた。しかし俗世において人々が稼ぐもの
には全く　心であった。彼は して い人物ではなかった。そうであったのなら、23年 にも
渡り彼の元に忠 に い、数々もの いを り げてきた荒々しいアラブ人たちは彼についてはい
かなかったであろう。彼らにとって、どのような空腹感にも る何かが彼にはあった
のである。 去において、彼らは常に暴 し、取るに足らないことを理由に言い争いや、
あらゆる　の残忍な　さへと びつける野蛮な男たちであった。相 の 利と勇 がない限り、彼
らに命令出来る者はいなかったのである。このような人々が彼を 言者と呼んだのであ
る。彼は彼らに して毅然とした 度で向き合った。それもなにひとつ包み さず、ありの
ままの姿で。彼は自らの外衣や靴を い、彼らの中心となって いに参加し、指 し、命令
した。彼らは彼がどのような人物であったかを目にし、良く理解していたはずなので
ある。彼がいかなる名で呼ばれていたのであれ、冠を戴く皇帝でさえも、自ら ってい
た外衣を っていた彼ほどに われたことはなかった。そして史 に残されている、23年に
も渡る しい　といった事 を ても、私はそのようなことが真の英雄には欠かせないことで
あると考えるのだ

「これらのアラブ人たちとマホメットという男、そしてその一世 は、デリ からグラナ
ダまで天高く燃え上がった世界の火 粉を示すことになった、一 の火花ではなかったろ
うか！その 大なる男はいつも、天の彼方の 光のようであった、と私は言おう。そして
その他全ての人 は、まるで燃料であるかのように彼を待ち受けていたのであり、それ
から彼らも同 に火を くことになるのである…」

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/576

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。